人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！　NPO法人

JAPAN NOW 観光情報協会

Non-Profit Organization　JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光ＮＰＯ」が発信する隔月刊情報紙　第８３号　発行日２０１２年５月２５日

Contents

JN協会通常総会ひらく ―― 1
又野・観光庁次長の講演 ―― 2
井手・観光庁長官語る ―― 3
アメリカこぼれ話、バンコクゴルフの旅 ―― 4
高田城の桜が世界5大花見に ―― 5
京都府・宮津城、NEWSPOT（旅の日） ―― 6
おんでん博物館構想、観光セミナー ―― 7
気象の話、会員名簿 ―― 8

世界遺産目指す鎌倉の象徴・露座の大仏（新緑に囲まれて）

ＪＮ協会の第11回通常総会開く

新理事長に大島愼子氏が就任

ＪＡＰＡＮ　ＮＯＷ観光情報協会の第11回通常総会は5月18日（金）午後3時から、東京・麹町の海事センターで開き、23年度の決算案、24年度の事業計画、予算案を承認し、理事選出を行った。

執行部は、松尾道彦理事長が退任し顧問に就任、新理事長に大島愼子副理事長（筑波学院大学学長＝写真）が就いた。その他、副理事長等の人事は最終面に掲載している。

総会は、議決権を持つ143会員のうち、出席23名、書面表決書57の計80議決権で過半数となり成立。司会の堤るり事務局次長が議長選出を諮り、杉行夫事務局長を選んだ。

杉議長が議題を説明。まず1号議案の23年度事業は、4回の講演会（各地でのフォーラム）、10回の研究会（観光立国セミナー）などの活動を実施した旨、報告。決算案説明の後、前監事が監査報告、全会一致で承認された。

24年度の事業は、本総会後の講演会、「観光立国フォーラムin神戸」などの共催、観光立国セミナーの実施等を予定している。

理事は、25名を再選した。

議事終了後、新理事長の大島愼子（ちかこ）さんが挨拶「ＪＮ協会は、11年前に観光立国を推進する狙いのＮＰＯ法人としては全国初の発足。2代目までの理事長のもと、健全財政で発展してきた。私は力不足だが、観光にかける想いは他人に負けないと自負している。各地自治体、民間の観光関係者との連携、先輩・同輩の皆さんのご協力で、観光立国推進のお役にたちたい」と決意を述べた。

総会のあと、講演会に移り、又野己知・国土交通省観光庁次長が「観光立国の推進について」と題して講演した（概要は2面に掲載）。

このあと寺前理事（加賀市長）の乾杯で懇親会。

北陸新幹線を活かす観光戦略を！

須田寛・ＪＮ副理事長が、上越市で講演

4月11日「新幹線と観光」と題して、須田寛・ＪＲ東海相談役が講演した（講演の要旨は2面に）。主催は、上越商工会議所など、ＪＮ協会も後援した。主催者を代表して、田中弘邦会頭が挨拶、来賓の村山秀幸・上越市長、名越次郎・北陸新幹線建設局長が祝辞を述べた。

参加者は約200人。3年後に開通する北陸新幹線を観光振興にどう生かすか、須田氏の提言に聞き入った。参加者には、須田氏の著書「昭和の鉄道」が配布された。

須田副理事長に「旭日大授章」の叙勲

24年度春の叙勲で、ＪＲ東海相談役でＪＮ協会副理事長の須田寛氏（81歳）が「旭日大授章」を受け4月29日、皇居で天皇陛下から親授された。

須田氏は、昭和29年に京大を卒業後、国鉄（現ＪＲ）に入り、民営化に伴いＪＲ東海に移り、社長、会長を経て現職。長年の鉄道業の発展に寄与したことが評価され、最高級の叙勲となった。

観光振興に全力を挙げる

国土交通省観光庁次長・又野己知（みとも）氏

いまの役職は23年9月からだが、観光関係の仕事は3回目になる。当時は、観光関連予算は20億円だったが、現在は100億円。隔世の感がある。

観光の歴史を振り返ると、昭和29年に松下幸之助氏が月刊誌に「観光立国の弁」を発表され、観光大臣を作るべきだ、と強調されたことが、先見の明ともいえるエポックメーキングなことだった。そして、小泉首相の時、観光基本法が成立、観光庁が創設された。大臣ではなかったが、観光推進に弾みがついた。

ところが、その後のリーマンショック、3・11大震災と観光にとっての逆風が吹き荒れ、インバウンド（外国からの訪日客）は1000万人目前で、大幅ダウンを余儀なくされた。平成23年には620万人ちょっと、平成22年の861万人から大きく落ち込んでいる。世界的にみると23年の日本は30位、アジアでも8位で韓国より少ない。

私が初めて観光に関係したころは、日本のインバウンドはマレーシアより多かった。それが、22年ではマレーシアは2460万人で、日本のざっと3倍。

新「観光立国推進基本計画」で巻き返し狙う

今年3月、平成18年に成立した「観光立国す新基本計画」を改定し、新しい計画が閣議で決まった。主な内容は、①インバウンド2500万人を目指す（第一次計画では3000万人）　②震災からの復興を急ぐ　③観光客の満足度向上を図る　④観光の裾野を広げ、充実させる――などである。

いま、日本の観光を取り巻く環境は、大震災の影響（地震が多いなどの印象）、福島原発事故による放射能への恐れ、さらに長期的に続く円高と、非常に厳しいものがある。なかでも、韓国からの入り込み客は円高とウォン安で日本の物価が大幅高となっており、極端に減っている。

こうした中でも、今年になって外国からの入り込み客は、中国などを中心に戻りつつある。私は24年の外国人客が過去最高の900万人に達し、2500万人に向けて着実に進んでいくと信じ、そのための施策を着実に進めていく覚悟である。

外国人旅行者数比較（平成22年）抜粋

国名	実数（千人）	順位
フランス	76, 800	1位
中国	55, 665	3位
マレーシア	24, 577	9位
シンガポール	9, 161	26位
韓国	8, 798	28位
日本	8, 546	30位

新幹線開通を前に衆知の結集を！

“武将観光”という観点もあり得る

須田寛・ＪＲ東海相談役

新幹線開通には、３つの社会経済的効果がある。工事に伴い地元の建設関係者にカネが落ち、人と経済に波及効果がでること、利用者の移動所要時間が短縮される効果、排ガスが少ないことによる環境改善の効果、である。加えて、観光振興効果も大きいものがある。地元の人がこれから重視すべきは、この観光に与える効果だ。

私は、いつも新幹線開通効果の典型的な例として岡山を挙げている。岡山は、山陽新幹線の通過駅だが、県・市を挙げて開通前から取り組んだ。その結果、同県を訪れる客は大幅に増え、その後も減っていない。

そこで北陸新幹線開通に関して私見を述べる。3年後に金沢まで延伸され、上越市内には新駅ができる。今の直江津駅とは離れるが、これを活かす道を考えないと、宝の持ち腐れになりかねない。首都圏からも関西からも2時間圏内となるので、三角ルートの形成を考えたい。そのためには、まちづくりの視点に立っての観光推進、新幹線新駅（仮称・上越駅）からの２次輸送網を充実させて総合観光交通システムを作る、的確な情報発信できる態勢を作ることだ。

観光はいま、停滞している。団体客中心の受け入れ体制が、個人客主体の時代にそぐわなくなっていているからだろう。そこでいま、テーマ別観光とか体験型、学習型観光などのコンセプトが出されている。ご当地でいえば、上杉謙信と言う誰もが知っている武将の出身地、遠征先などを取り込み、謙信の眼を通してみた“武将観光”という売り方もあるだろう。また、新潟県には２本の新幹線（上越、北陸）が通ることになる。この利を活かすトライアングル観光もありえよう。

かつて「襟裳岬」という歌謡曲が流行った。「襟裳の春は、何もない春です」という歌詞が、観光客を呼び込んだという。（観光資源としては）何もないということはあり得ない。人口減少時代に入り、地域活性化は交流人口を増やす以外に、ない。知恵と努力、そして「もてなしの心」で、大いに観光振興に取り組んで頂きたい。

7月に「海事・観光立国ﾌｫｰﾗﾑin神戸2012」

日本海事センターとＪＡＰＡＮ ＮＯＷ観光情報協会は7月13日（金）午後3時から、神戸市の神戸商工会議所神商ホールで「国際海事・観光都市 神戸の発展」のテーマで第12回フォーラムを開く。

国土交通省観光庁長官の井手憲文氏、ＪＲ東海相談役の須田寛氏が「国際観光都市・神戸の魅力」、日本船主協会の小島茂氏が「船乗りと観光」と題する講演がある。矢田立郎・神戸市長、国交省神戸運輸監理部長が来賓挨拶する。後援は、観光庁、神戸市、神戸新聞社を予定している。

東　京
霞が関発の最新情報
国土交通省・総務省・財務省

まだ観光業は坂の上の雲になりえる

国土交通省観光庁長官
井手憲文（いで・のりふみ）氏

2012年4月1日付けで３代目の観光庁長官になった井手憲文（いで・のりふみ）氏は、76年3月東大法学部卒、4月に運輸省（現国土交通省）に入省。内閣官房総合海洋政策本部事務局長、10年8月海事局長。58歳。

－現役官僚としては２年ぶりの長官になりますが、抱負をお聞かせください。

観光業はまだ他の産業と違って「坂の上の雲」を目指している新しい産業です。東日本大震災などで落ち込んでいますが、弾みをつければ坂の上の雲になります。そのために次のような三つの事をしようと思ってます。一つは海外からの客を増やすために訪日外国観光客（インバウンド）を部門（セグメント）に別けて分析します。観光というのはいろいろな部門から成り立っておりきめ細かな事が必要です。二つ目はイベントを打ってもそのままではダメでフォローをしていかなくてはならない。観光産業を強くしていかなくてはなりません。三つ目は観光庁の組織を強くするだけではなく、政府観光局などの団体に高度な能力を蓄積していくようにしていかなくてはなりません。こうした指導も必要でしょう。

－３月の訪日観光客の落ち込みは2010年に比べて4.4％と落ち込み幅は減ってきています。それでもまだマイナスですね。

確かに一時のように二桁のマイナスから一桁になってますが、プラスではありません。細かな手当てをしていかなくてはいけないと思いますが、すべてに効く万能薬はありません。6月からは海外への観光マーケットへのメディア対策を打ちます。旅行会社への働きかけなどもします。部門ごとの取り組みもしていきます。風評被害もまだあります。世界旅行ツーリズム協議会（ＷＴＴＣ）が4月16日に、仙台で開かれました。世界中からホテル、航空会社の観光関連企業約100社のトップが来ました。そこで放射能の話がありましたが、ソウルよりも仙台の方がマイクロシーベルトは少ないというような話も出ました。韓国の責任者とも話をしましたが、両国が協力して観光客を増やす事で一致しました。ツアーによる観光客を増やし５年後には1800万人の訪日観光客にしたいものです。

－東日本大震災の影響で東北地方は観光面でも痛手を負ってますが、どう回復してゆきますか？

「オックスフォードエコノミックス」という調査機関によると日本の回復力は早いと言っています。それでも私は東北地方の戻りは弱いと思っています。そこで5月から東北の観光を強化していきます。航空路でも福島空港では中国、韓国便が運休しています。これを早く回復させます。チャーター便なども増やしていきます。オープンスカイ政策も進めていきます。安い飛行機のＬＣＣの東北地方への参入も進めます。ビジット・ジャパン・キャンペーンで13重点地域が決められてますが、マレーシア、インドネシアからの客を増やしてゆきたいと思ってます。中国との尖閣列島の問題は観光面で悪影響が出るという心配はしていません。

（聞き手は経済ジャーナリストの阿部和義）

「鉄道」と「観光」②

鉄道が持つ三つの役割

ＪＮ協会副理事長・須田寛氏（ＪＲ東海相談役）

鉄道は観光に関して次のような役割を果たすと考えられる。
①観光地へのアクセス（交通手段）としての役割。
②観光（価値）を高める機能。
③鉄道（利用）そのものが観光資源（対象）となる。
この三点について実例を検証してみたい。

（一）鉄道の観光地へのアクセス機能。

観光地は交通手段が整備されてこそ観光地たり得るといっても過言ではない。古くは熱海、下呂等鉄道の開通がその発展に大きい役割を果たした所も多い。近年は新幹線の開通が観光振興に果たす役割が目立つ。

（例）山陽新幹線の岡山までの開業（1972年）により岡山県の年間観光客は二倍となり四国山陰にもその影響が及びこの効果は数年間持続した。

東北新幹線盛岡、大宮間開業（1982年）の際は東北6県の主要観光地の入りこみが20～60％増加した。

九州新幹線の全通（2011年）で鹿児島市の宿泊観光客は20％増加（指宿は40％増）関西対鹿児島の旅行商品販売額は10倍になった。

等々の具体例がこのことを示している。しかし新幹線の開業効果は観光の場合ともすれば一両年で終息する場合が多い。しかしその例外として前述の山陽新幹線岡山開業後の観光客の増加傾向は景況悪化にも不拘数年間持続したことが特筆される。

それは岡山県の主な観光地が新幹線開業を念頭に思い切った観光まちづくりを行いそれが成功したことによる。

又観光客の訪問先を地域別に細かくみると新幹線駅からの二次輸送手段が整備された所にその効果が目立つ現象がみられる。東北新幹線の場合二次輸送（バス、在来鉄道等）が整った地域は40～60％増だったのに比べ二次輸送機関が充分でない所は横這いもしくは数％程度の増にとどまった。

以上から鉄道の観光地へのアクセス機能が生かされるためには観光まちづくりが成功すること、二次輸送機関が整備されていることがそのカギを握っていると考えられる。（次号に続く）

3分野を一冊の本にまとめた意欲作品
「そこが知りたい　観光・都市・環境」
お問い合わせはJAPAN NOW観光情報協会

アメリカ・こぼれ話　－　⑲

「四選された大統領」

ＪＮ協会理事　北村　嵩

アメリカの大統領は、2期8年で退任すると定められているが、歴代大統領のなかで唯一人、三選はおろか四選を果たした大統領がいる。「ニュー・ディール政策」を掲げて、大恐慌下のアメリカを牽引し、第2次世界大戦中は自由主義陣営のリーダーとして活躍したＦＤＲ，フランクリン・デラノ・ルーズベルトである。

現在は、大戦後の憲法修正によって正式に三選は禁止されているが、その時まで、合衆国憲法は、大統領の任期については、再選を妨げずと書かれていたが、それ以上の詳しく規定されていなかった。それにもかかわらず歴代の大統領が再選まででとどまっていたのは、初代大統領ワシントンの前例を尊重したからだといわれている。ワシントンは一人の人間が10年以上政権の座にあることは、民主主義の国としてふさわしくない、と考えたのである。しかし、ＦＤＲ以前にこのタブーを犯して三選に挑戦した大統領がいた。ほかならぬＦＤＲの親戚で、20世紀初頭の「革新の時代」に二期大統領を務めたセオドア・ルーズベルトである。彼はマッキンレー大統領の副大統領であったが、就任後半年でマッキンレーが暗殺され、大統領に就任した。二期7年半勤めた後、タフトを後任に推薦して一旦は退任したが、タフトの政策に満足できず、4年後の大統領選挙に、タフトの再選を進める共和党の一部を割った第三政党から出馬し、タフトより多い得票を得たが、民主党候補のウイルソンに敗退して三選を果たせずに終わった。

さてＦＤＲであるが、36年に圧倒的な大差で再選を果たしたが、任期の終盤39年の段階では、前例のない三選への反発と、孤立主義の伝統と戦争不介入の世論が強く、世論調査では多くの国民は三選に反対であった。しかしこの頃、国際情勢は急速に悪化し、日本は日中戦争を開始し、ドイツとソ連がポーランドに侵入して第2次世界大戦が始まり、40年6月にはパリがヒットラーの手に落ちた。このような情勢の中アメリカは既に連合国側の兵器廠の役割を果たしており、ＦＤＲは三選に挑んで当選を果たした。この三選が大きな山場であったが、44年の四選の時には、戦争中に指導者が代わることの不安が大きくなり、空前絶後の大統領四選が実現したのである。

バンコク・ゴルフの旅

小田急電鉄(株)　顧問　利光國夫

この数年冬場にバンコクへゴルフをプレイしに行くのが恒例になっている。会社の後輩のＴ君が何時ごろからか知らないがタイに惚れ込んで毎年バンコクに行きだして、数年前に誘ってくれたのがきっかけとなり、私も日本のゴルフ場の枯れた茶色の風景から青々としたバンコクのグリーンに立つ魅力に捕らわれてしまったのである。

以前はハワイで何回かゴルフをプレイしたものだが、グリーンフィはもとよりホテルの宿泊料、レストランの食事代もバンコクの方がずっと割安で時差も少なく、ハワイではセルフカートだがこちらではキャデイがプレイヤーに一人ずつ付くのが私ぐらいの年齢になると有難いのである。何度か同じコースでプレイしていると馴染みのキャデイができ、うまく都合がつく時はＴ君が予め指名してくれることもあって再会するのも楽しみの一つである。

日本では寒さに震えている時に半袖シャツ一枚のプレイで汗をかき、シャワーを浴びてビールで喉を潤してからタイ式マッサージをしてもらうと全身の疲れがとれてまことに快適である。

バンコクでのゴルフというと昔は一人にキャデイが二人以上付いて、テイーアップから日傘をさしたり携帯用の椅子まで用意してくれるなどと聞いたものだが、今はそんなことはなくたまに韓国人などがそういうことをやっているらしい。

タイは元来親日国であり、かつて日本が満州国を建国した時国際連盟で日本の主張を否定するリットン報告書の是非を問う採決で唯一棄権し、暗に日本を支持したのは周知の歴史的事実だが、アジアの殆んど全ての地域が欧米列強の侵略によって植民地と化した中で、独立を守り続けた辛苦の歴史を日本と共有する点に於いて互いの共感が生じたのであろう。

Ｔ君のご尊父も大東亜戦争中タイに駐屯し、映画「戦場に架ける橋」で有名な泰緬鉄道の建設に携れたそうだが、「俺たちはあんなことはしていない、戦後復員する時にはタイ国軍が捧げ銃で見送ってくれた」と言っておられたそうである。

話が横道に逸れたが、私はバンコクしか行っていないものの、タイは日本人にとって良い観光地であり、健康の許す限りまたゴルフの旅に出かけたいと思っている。

観光・旅行の“ダボス会議”、仙台・東京で開催

世界旅行ツーリズム協議会（ＷＴＴＣ）の第12回グローバルサミットが、4月16～19日仙台と東京で開催された。これは世界の観光産業トップが集まる会合で、観光関係者の“ダボス会議”と言われ、仙台に700人、東京1200人が参加した。日本の震災からの復興、世界の観光産業の動向、航空業界の役割、環境問題等について話し合われ、なかでもビザ取得の手続き改善問題について、世界の観光産業界のリーダーが協力していくことが、報告書に盛り込まれた。

日本政府から、17日の東京会合開会式に野田首相が参加し、震災復興と日本経済の再生に力を注ぐこと、観光の促進が必要だと強調した。前田国土交通大臣、奥田副大臣、山根外務副大臣も参加した。

大震災・津波を乗り越えよう！

東北観光博、夏祭りシーズンへ

3・11大震災・大津波・原発事故を乗り越えて、東北に光を！今年3月スタートした「東北観光博」は、「東北まるごと全部が博覧会場」というコンセプトで、来年3月まで開かれている。

東北地方６県に28のゾーンを設け、1753件に上る観光スポットをＰＲ、ボランティアガイドによる案内、東北パスポートによるいくつか恩典、スタンプラリーなどの工夫で、とりあえず入り込み客を震災前の1億2000万人に戻し、さらに上乗せを目指すとしている。

我が国の観光事情は、大震災、デフレ、円高などの影響で、マイナス成長となっている。しかし東北だけでみると、宿泊客数は他地域に比べ落ち込み度が少ないという。全国から来る支援ボランティアが宿泊数を支えている要素もあるが、東北観光博のインパクトも大きいようだ。

これから、仙台七夕、青森のねぶた、秋田の竿灯祭りなど、東北各地の祭りシーズンに入る。地震・津波の復旧も進みつつあり、支援ボランティアの入り込みも減っているとはいえ、各地の観光関係者は「目標の1億2000万人越えをぜひとも実現を」と、一段と気合を入れている。

東北ぜんぶが博覧会場だ。

世界５大花見に上越の高田城の桜

今年は天候が安定せず、各地で梅と桜が同時に咲く思わぬ光景が見られた。そろそろアジサイが見ごろとなるが予定通りの開花となるか？

アメリカＣＮＮの観光サイトで世界の5つの春のお花見スポットが紹介された。チューリップが咲くオランダのキュウケンホフ公園、イギリス・ロンドンの王立植物園、中国・上海の桃の花、フランスのラベンダールートと並んで、高田城の桜が選ばれた。

ぼんぼりに照らされた4000本の桜は「日本三大夜桜」として、観桜会期間中100万人が訪れるという。

ＣＮＮネットで世界に飛び出した高田城の桜。来年に乞うご期待！　（堤るり）

ＣＯＬＵＭＮ

校歌は時代の反映？

県立熊本第一高校校歌が昨今話題を呼んでいる。同校校歌は前身である旧制熊本女子師範学校の伝統を継承したせいか、歌詞には「純潔」とか、「清き操」のような女性特有の言葉が盛られている。戦後同校は男女共学校となったが、その当時は歌詞が話題に上がることもなかった。ところが、昨年まで34年間も入学者がいなかった男子生徒が今年になって一挙に70名も入学した途端、これを機会に歌詞を変えたいと主張する年配のOBと、その必要はないというOGとの間で一騒動持ち上がっている。

それとは別に、最近の朝日新聞によると石川啄木や宮沢賢治らを輩出し、130余年の伝統を誇る文武両道の名門校・岩手県立盛岡第一高校には、かつて同校校歌が公に物議を醸したハプニングがあった。同校は1968年硬式野球部が夏の甲子園に出場し、1回戦で勝利を収めた。その直後、校歌が演奏された瞬間スタンドはどよめき、しばらくして哄笑がわき上がったそうである。その時甲子園で何が起こったのか？　原因は校歌の歌詞ではなく、そのメロディにあった。

静まり返ったグランドに流れてきた校歌は、何と戦時中を髣髴させる勇ましい「軍艦マーチ」だったのである。流石に歌詞は♪守るも攻めるもくろがねの～♪ではなかったが、曲はれっきとした軍楽師・瀬戸口藤吉作曲による「軍艦マーチ」だった。（興味のある方は、‘YouTube’で試聴を）

何でもその昔宮古港に大型漁船が出入りする度に、港にはこの勇壮な「軍艦マーチ」が流れたそうである。それが地元の旧制盛岡中学校校歌に借用され、そのまま今日まで歌い継がれることになったらしい。今ならさしずめ隣国中国のお家芸「知的財産権侵害」で訴えられるところだろうが、明治末期ののどかな地方都市では些細な盗作？劇なぞ気にも留められなかったのだろう。

そういえば、北原白秋作詞、山田耕筰作曲からなる母校・湘南高校校歌も中々の秀作だが、その歌詞の一部に♪～立身報国　期せよ　友よ～♪と修身教科書をなぞったようなくだりがある。入学式で初めて耳にした時、些か時代錯誤的な違和感を覚え、しばらく馴染めなかった記憶がある。

「歌は世につれ、世は歌につれ」と謳われ、その時代に流行った歌は、しばしばその時代の世相を反映していると言われるが、それは学校教育の現場でも例外ではなかったということだろう。　（近藤 節夫）

城下町と観光 –26　京都府 ·宮津城

古い家並みが面影残す

初代藩主は京極高知

JN協会参与　長宗我部 友親

宮津港に面して建てられ、西に流れる宮津川が天然の堀となっている。宮津城は京都府宮津市鶴賀にある近世の城郭だが、今は城址が残るのみである。

港湾のある宮津には国府がつくられ、丹後の中心地であった。一色氏が長く治めていたため、一色氏の枝城や砦が丹後一体に広がっていたが、織田信長の命により、細川藤孝（幽斎）と明智光秀が丹後国を攻め、一色氏は滅亡した。

細川藤孝に追われた一色氏の最後の城主、一色義清（いっしき・よしきよ）は、細川軍の本陣に切込みを掛け、宮津の海岸で壮絶な最期を遂げている。

信長に丹後を与えられた細川氏は宮津城を改修して、ここを丹後経営の本拠地とした。だが、天正10年（1582年）の本能寺の変に際して、藤孝は明智光秀とは一線を画するために、出家して、後は忠興が継ぐ。

慶長5年（1600年）に起こった関ヶ原の戦いでは、細川家は徳川家康につき、豊前国を家康から与えられる。丹後には、京極高知が入封した。

高知は丹後を三分割して、本藩の宮津を中心に、田辺と峰山を支藩とし、初代の宮津藩主には嫡男の高広がつく。しかし京極家は二代藩主の高国の時代に、旗本となる。その後、宮津藩は永井、阿部家などとめまぐるしく藩主が変わり、宝暦8年（1758年）にようやく松平資昌が入って、明治維新まで続く。

宮津城は内堀の中に本丸、二ノ丸がある。そして内堀の外に三ノ丸と武家屋敷を配し、城を取り巻いていた。しかし現在は、それらの城郭はほとんどが破壊され、石垣などごく一部が残るのみである。宮津小学校に太鼓門が移築されている。また、「一色義清自刃」の碑が一色稲荷に建てられている。

宮津の市内には、まだ古い家並みが残り、城下町の面影を残している。

NEW SPOT

in japan 32

旅の日

旅の日」の会のスパリゾートハワイアンズ=5月16日

松尾芭蕉が「奥の細道」へ向け江戸深川を発った1689(元禄2) 年3月27日, 新暦5月16日は「旅の日」。日本旅のペンクラブ(旅ペン) が旅の文化向上をうたって1972年に制定し、毎年「旅の日」の会を開き「日本旅のペンクラブ賞」を表彰する。

今年の同賞は大震災の困難を乗り越えながら積極展開する常磐興産・スパリゾートハワイアンズが受賞。同日表彰の「旅の日」川柳は3,945句の応募があり大賞に神奈川県・吉川弘子さんの作品「少しだけ行方不明になれる旅」が選ばれた。

旅ペンは62（昭和37）年に設立し、今年50周年を迎えた。会長は歴史上の西行、副会長は芭蕉とし現役の代表会員に旅行作家の山本鉱太郎さん。旅ペンのほか日本旅行作家協会(JTWO)やJAPAN NOW観光情報協会など、いずれも作家、ジャーナリスト、編集者、写真家、画家、大学教授ら多彩な顔ぶれの会員で組織する。親睦を図り、政治、思想は中立的な立場をとる。

JTWOは73年に設立、来年40周年を迎える一般社団法人で初代会長は故斎藤茂太さん、2代目（現名誉会長）は兼高かおるさん、3代目の現会長は下重暁子さん。観光立国推進のため海外·国内・訪日の最も優れた企画旅行「ツアーグランプリ」を毎年表彰する。JAPAN NOWは2001 年設立のNPO(特定非営利活動)法人で理事長は大島慎子・筑波学院大学学長。日英対訳の年刊情報誌「JAPAN NOW」発行などインバウンド(訪日旅行者)誘致に力を入れる。

（文・写真 林　荘祐）

ＮＰＯから提案します

宿場町の「おんでん」博物館構想

ＪＮ協会理事　加賀市長　寺前 秀一

加賀市内には六つの中学校区があります。うち五地区については、温泉、重要伝統的建造物群地区等の全国発信できる資源が存在しますが、動橋（いぶりばし）地区については、加賀棒茶、常きげん（地酒）といった全国ブランドがありますが、「加賀動橋」とは銘打たれておらず、地名の動橋は無名ですから、加賀市長として、動橋地区の整備振興が重要課題です。動橋の特徴は、北國街道の宿場町として発達し、北陸本線動橋駅、温泉電気軌道動橋駅を中心に町が形成されています。地区住民が危機感を持った契機は、橋本酒造の倒産です。天正年間に起源をもつ橋本家は四百年近くの歴史があり、創業二五〇年の歴史をもつ老舗の蔵元です。橋本家の家屋敷は文化財保護法の登録有形文化財として一般開放され、大日盛酒蔵資料館も併設されています。これらの資産が競売に付されました。大日盛酒蔵資料館は地元有志により確保されたのですが、登録文化財である橋本本家が不動産会社に落札されてしまいましたから、住民の危機意識が高まりました。不動産会会社に対し、登録文化財の公開義務を説明していますが、民事上解決すべき課題が残されており、事態を注視しています。

動橋地区は、徒歩から、鉄道、鉄道から自動車へと交通手段の変遷を受け止めてきた地区です。「おんでん」と親しまれて来た市内の線路は全部廃止され、転換後のバス輸送も壊滅的です。地域の誇りを取り戻す資源として、この温泉電気軌道（おんでん）を活用した博物館を考えています。ＪＲ動橋駅は古い駅舎を保っており、加賀市も日本に二両しかない馬車鉄道を保存しています。駅前には駅頭倉庫等も残されており、博物館用地にふさわしい風情があります。加賀市内の旧家にも、旦那衆として出資した家の資料が死蔵されている可能性があります。これらをまとめて保存し、加賀温泉駅騒動といった苦い経験も、歴史を学ぶといった意味で子どもたちに語りつないでゆく価値は十分にあります。ＪＡＰＡＮ　ＮＯＷ観光情報協会の鉄道フアンの知恵を貸していただけると幸いです。

×　×　×

観光立国セミナー

街づくりと観光に欠かせない「人」

沓掛 博光氏（旅行ジャーナリスト）

75回目の「観光立国セミナー」は4月6日、旅行読売の元編集長・沓掛博光氏が、自分が訪ねた観光地からベスト10を選んで報告。最初に紹介したのは、愛媛県の大洲市で、ＮＨＫ連ドラ「おはなはん」のロケ地となったところ。ある観光関係者が毎朝、市内を流れる肱川の清掃をしていた。「自分が住んでいい街だと思ったら、人を呼べる」と言うのが、その理由で、この街を訪れる観光客はあとを絶たないという。このほか、群馬県の四万温泉、長野県信濃町、知床の斜里町など、次々と説明したが、10か所で共通して言えることは「（観光と街づくりに対する）理念と、それを具体化する人材と財政的な支援という三要素がカギ。中でも「人」がポイントとなる。

人と向き合う旅～いわゆる観光とは違うが！

ノンフィクション作家　中村安希さん

若い女性の一人旅、世界70カ国くらい回っている。その成果は本になり、「インパラの秋」で開高健賞を受けた。「いわゆる観光地巡りではなく、その地の人と向き合い、地の食と会うのが楽しい」といい、昆虫を食べたりバナナのバーベキューなど、各地の食べ物を紹介した。

表（玄関）から入るのが観光なら、裏（勝手口）から訪れる旅だとか。裏から見て各地で気になるのがゴミのヤマ、「世界はゴミだらけ」と語る。とくにプラスチックゴミの多さにショックを受け「大量消費文化を見直す」きっかけになる旅だったという。

JN協会主催の観光立国セミナーの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存しています

東京の一人勝ち？観光客の入り込み

東京に次々と“観光名所”が誕生している。今年5月開業した「東京スカイツリー」、2月に開通した「東京ゲートブリッジ」（愛称・恐竜橋＝写真下）、渋谷の「ヒカリエ」等々。

東京への外国人観光客は、平成22年で594万人、全国のそれが861万人だから、約7割を占めている。そこへ新名所の登場である。ますます、東京集中になりそうな気配だ。

こうした新名所は、外国人ばかりでなく、国内からも客を集めそう。22年の国内旅行者の東京入り込み数は4．6億人。「東京ディズニーランド」への足掛かりともなるし、買い物客が集まる秋葉原なども相変わらず強く、24年の数字が興味深い。

いまは円高が外国人観光客の足を引っ張る格好になっているが、国債発行残高が異常に多い日本の為替相場は、いずれ円安に振れるという見方もある。加えて貿易収支が、原発の運転停止による火力発電用の原油や天然ガスの大量輸入などで、大幅な入超になっている状況を見るとき、せめて大幅な出超となっている観光収支を改善しようという政策の強化も次々と打ち出されていくはず。どうやら、東京の観光面にとって追い風が吹いている？

[会員募集] 都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。
個人会員（1口5千円）、 団体会員（1口5万円）
東京都渋谷区代々木1－58－13小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会（電話03－5304－9500）

会員の投稿を歓迎します～情報紙の充実を目指して！！
観光情報紙2012年5月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します（400～500文字程度）。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。締め切りは、5月15日です。

シリーズ

気象とお天気の話

梅雨の花～アジサイ

沖縄や奄美では、今年は平年より10日以上早く、4月末に梅雨入りしました。本州付近も、6月から7月にかけて1ヶ月以上、雨の季節が続きます。この梅雨どきの花といえば「アジサイ」ですね。

気象庁では、サクラと同じようにアジサイの開花も観測しています。でも、観測している花は、わたしたちがアジサイの花と思っている、小花の集まった丸い部分ではありません。4枚の花びらをもつ小花に見えるものは装飾花で、実はがく片です。丸く集まった装飾花の奥に、7ミリほどの小さな花が隠れていて、

これがアジサイの本当の花（真花）。

この隠れた本当の花が咲く時期は、九州から関東にかけては6月上旬から中旬の所が多く、甲信越では６月下旬、東北では7月上旬から中旬で、まさに梅雨の時期です。北海道では7月下旬から8月上旬になります。

本当の花が咲くより早く、周りの装飾花が青やピンクに色づきます。装飾花はがく片ですから雨に濡れても美しく、また、アジサイ自身も水を多く欲しがり、乾きに弱い性質です。アジサイは、まさに雨の季節にふさわしい花といえるでしょう。

日本気象協会　折坂章子

会員名簿

(敬称略)　（個人会員名簿は公開していません）

理事長　：　大島慎子（筑波学院大学学長）
顧問　：　松尾道彦（前理事長、元日本鉄道建設公団総裁）、 丹羽　晟（元理事長、日本空港ビルデング顧問）
副理事長　：　岡村進（元小田急トラベル社長）、 横山善太（元㈱JALUX特別顧問）、 須田寛（東海旅客鉄道相談役）
加納隆（元朝日新聞経済部記者）
事務局長　：　杉行夫（理事）、事務局次長：堤るり（理事）
支部長　：　片山文彦（新宿）、魚住隆彰（北陸）、麓理沙（立教）、長尾亜夫（九州）、
須田寛（中部）、岩田弘三（神戸）、坂本眞一（北海道）、梅原利之（四国）、

【団体会員】（2012年05月25日現在）

AGC硝子建材ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱、㈱朝日ﾈｯﾄ、(有)青葉、㈱ｱﾄﾞﾊﾞﾝ、㈱ｱﾄﾞﾙｯｸｽ、荒井建設㈱、ｱﾝﾃﾞｽ電気㈱、安藤建設㈱、ｲｰｴﾑﾃｨｰ㈱、池田煖房工業㈱、㈱伊勢丹、富山県射水市、㈱井六園ﾜｰﾙﾄﾞ、岩田地崎建設㈱、㈱えんれいしゃ、(財)NHKｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、NPO「江戸城再建を目指す会」、㈱大林組、隠岐の島町(島根県)、㈱奥村組、小田急電鉄㈱、㈱小田急ﾄﾗﾍﾞﾙ、鹿島建設㈱、鹿島道路㈱東京支店、大阪国際空港ﾀｰﾐﾅﾙ㈱、㈱大塚食品、環境ﾃｸﾉｽ㈱、関西電力㈱、九城企業㈱、㈱九電工東京支店、九州電力㈱、九州旅客鉄道㈱、㈱ｷｬﾝﾄﾞｳ、㈱熊谷組、㈱ｸﾞﾘｰﾝｷｬﾌﾞ、群馬県、京浜急行電鉄㈱、㈱耕人舎、佐川ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ㈱、㈱ｻﾏﾝｻﾀﾊﾞｻｼﾞｬﾊﾟﾝﾘﾐﾃｯﾄﾞ、三協立山ｱﾙﾐ㈱、三普旅行社有限公司、四国電力㈱、四国旅客鉄道㈱、清水建設㈱、㈱JAL−DFS、㈱JALUX、㈱JTB、消音技研㈱、新菱冷熱工業㈱、㈱ｾﾝｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、常磐興産ﾋﾟｰｼｰ㈱、住友電設㈱、(有)西洋館ｾﾝﾀｰ、竹内印刷㈱、㈱銭高組、全日本空輸㈱、ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾟﾛ㈱、ｾﾝﾄﾗﾙﾘｰｼﾝｸﾞｼｽﾃﾑ㈱、㈱ﾀﾞｲｴｰｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ、第一交通産業㈱、第一資材㈱、㈱大気社、大興物産㈱東京支店、大成建設㈱、大成ｻｰﾋﾞｽ㈱、大成設備㈱大成ﾛﾃｯｸ㈱、大成ﾕｰﾚｯｸ㈱、大鉄工業㈱北陸支店、大日産業㈱、㈱高商、高砂熱学工業㈱、㈱竹中工務店、㈱丹青社、中国電力㈱、中部電力㈱、TCﾄﾚｰﾃﾞｨﾝｸﾞ㈱、㈱哲建、電研工業㈱、東海旅客鉄道㈱、東急建設㈱、東京急行電鉄㈱、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力㈱、東光電気工事㈱、東芝ｴﾚﾍﾞｰﾀ㈱、医療法人社団同友会、ﾄｰﾖｰｶﾈｯﾂﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ㈱、戸田建設㈱、名古屋鉄道㈱、西日本鉄道㈱、西日本旅客鉄道㈱、㈱西原衛生工業所、西松建設㈱、日墨ホテル投資㈱、日本ｵｰﾁｽ・ｴﾚﾍﾞｰﾀ㈱、㈱日本海ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ、日本空港ﾋﾞﾙﾃﾞﾝｸﾞ㈱、㈱日本航空ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗ｻｰﾋﾞｽ協会、㈱日本ﾌﾟﾗﾝﾄ建設、専門学校日本ホテルスクール、㈱ﾆｭｰﾃｯｸ、ﾈｽﾚ日本㈱、箱根町(神奈川県)、箱根建設㈱、東日本旅客鉄道㈱、㈱日立ﾋﾞﾙｼｽﾃﾑ、㈱日立製作所、㈱ﾋﾞｯｸﾞｳｲﾝｸﾞ、広島電鉄㈱、福岡空港ﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞ㈱、㈱ﾊﾞﾛｯｸｼﾞｬﾊﾟﾝﾘﾐﾃｯﾄﾞ、㈱ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｰﾋﾞｽ、富士機材㈱、藤長電気㈱、富士通㈱、ﾌﾟﾗﾈｯﾄﾜｰｸｽ㈱、北海道旅客鉄道㈱、北海道電力㈱、北陸電力㈱、北海道空港㈱、㈱ﾎﾃﾙ小田急、㈱ﾎﾃﾙﾒﾄﾛﾎﾟﾘﾀﾝ、前田建設工業㈱、㈱ﾎﾃﾙﾏﾘｯｸｽ、ﾏｲﾅﾐﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ㈱、㈱まるまんﾌｨｵｰﾚ、三井住友建設㈱東京建築支店、三菱電機㈱、㈱山武ﾋﾞﾙｼｽﾃﾑｶﾝﾊﾟﾆｰ、有楽土地㈱、㈱USEN、横浜貨物綜合㈱、横浜ﾋﾞﾙ建材㈱、㈱ﾗﾝｹﾞｰｼﾞﾈｯﾄ、菱重輸送機ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱、りんかい日産建設㈱

特定非営利活動法人（NPO）

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13
小田急代々木ビル３Ｆ
電　話　０３(５３０４)９５００
ＦＡＸ　０３(５３０４)５６３２
E-mail　info@japannow.org
Home page　http://www.japannow.org

発行人：大島慎子（ＪＮ協会理事長）
編集長：加納　隆（ＪＮ協会副理事長）
発行部数：3000部　主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

先だって高校の同期生50名が、福山市の「鞆の浦」を訪れた。狭い道路で交通渋滞が起きるため、湾内を埋め立て道路を作る、あるいは橋を架ける計画があるが、美観を損なう恐れがあり、揉めている。開発か景観保全か、飲み会でも議論となった。

そんな中、ある男が立ち上がり「大地震、津波で壊滅的な被害を受けた東北地方では考えられない議論だ。私は、これまでに12回ボランティアで被害地に行っている。こういう楽しい会も観光振興という点では否定しないが、皆さん一度東北に行きませんか」と言った。また、先に日本国籍を取得したキーンさんが、東北への関心の低さを指摘、日本人に失望したという趣旨の話をしていたとも、披露した。一同、粛然となり酔いもさめた。

で、私も彼に連れられて近々、東北に行く。何ができるか不明だが、ともかく原点に戻ってみたい。　（加納）